

18. 日本の社会主義

- 日本の社会主義…日清戦争後に起こった資本主義勃興の影響を受け、日本でも社会問題が顕在化した。それゆえ、社会主義の思想家が登場した。特に、キリスト教人道主義や民権主義から社会主義へ進んだ人物が多く誕生し、政治・経済・社会に大きな影響をもつことになった。
- 明治～昭和の社会主義…日清戦後の産業革命により、都市部での賃金労働者が増え、これに伴って労働問題などが顕在化した。その解決を図るための思想・運動が展開された。

◆自由民権論の流れ

- 幸徳秋水** [1871-1911] 明治期の社会主義者。中江兆民の書生となり、兆民から民主主義や唯物論を学ぶ。のちに、自由民権運動→社会主義運動に移行し、自らの思想を深めていった。日露戦争に関しては、平民社を設立し、『平民新聞』で非戦論を唱え、社会主義者として行動した。1905年に渡米後、無政府主義の影響を受けて帰国し、思想の急進化が進んだ。1910年に大逆事件の嫌疑をかけられ、翌年処刑された
- [著書] 『廿世紀之怪物帝国主義』(日本の帝国主義を、「いわゆる愛国心を経とし、いわゆる軍国主義を緯とする」して批判) 『社会主義神髓』(社会主義思想の啓蒙的解説書。当時の青年層に影響大)
- ・大逆事件…1910年明治天皇暗殺計画があったとして、幸徳秋水ら社会主義者26名が検挙され、12人が処刑された事件。社会主義運動弾圧を図る政府の方針によるものであり、以後社会主義運動・労働運動は厳しい冬の時代を迎えた
- 堺利彦** [1870-1933] 明治-昭和初期の社会主義運動家。幸徳と共に『平民新聞』で非戦論を展開する。その後日本共産党に入党するも、のちに社会民主主義の道に進む
- 大杉栄** [1885-1923] 明治・大正期の社会運動家。『平民新聞』に参加。無政府主義(アナキズム)を唱えたが、関東大震災後に拘引され、殺害される。以後、無政府主義は急速に衰える

◆キリスト教的人道主義の流れ

- 片山潜** [1859-1933] 明治-昭和期の労働・社会主義運動家。渡米後にキリスト教社会主義者としての自己を確立。帰国後は伝道と労働運動に活躍し、1897年には日本初の労働組合を結成し、1901年には幸徳らと社会民主党の結成に尽力。議会制社会主義を主張し、普通選挙制の実現に努力した。コミンテルン(世界各国の共産党の指導機関)にも参加し、日本共産党の結成を指導する等社会主義者として活動。モスクワで客死
- ・**社会民主党**…1901年に結党された日本最初の社会主義政党。3日で禁止された。6人中幸徳以外の5人はキリスト教徒。貧富の差や個人競争主義を否定し、社会主義・平和主義・民主主義を主張
- 安部磯雄** [1865-1949] 明治-昭和期の社会主義運動家。同志社を卒業後、欧米で神学や社会主義を学び、帰国後同志社大学・早稲田大学教授となる。社会民主党にも参加。1921年に日本フェビアン協会を設立し、議会制社会主義運動の発展に尽力
- 木下尚江** [1869-1937] 明治-昭和初期の社会主義運動家。普選・廃娼運動や、足尾銅山事件などに社会運動家として積極的に協力した。社会民主党にも参加。晩年には、社会主義から離れ、求道者としての生活を送る

◆マルクス主義学者

- 河上肇** [1879-1946] 明治-昭和初期の代表的マルクス主義経済学者・思想家。若い時は、足尾銅山鉱毒事件や無我愛運動に立ち入った。経済学的観点から、「貧乏の克服」という問題に取り組み、人道主義的・社会改良主義的な思想を訴えた。しかし、それでは社会問題の解決は難しいと考え、マルクス主義の道へ進んだ。京都帝国大学を退職し、共産党に入党したが、翌年検挙され、服役。出獄後は文学的生活を送る
- [著書] 『貧乏物語』(経済学の根本問題を資本主義の生み出す貧困と捉え、人心改造という心情的倫理による解決を説いた。)

センター問題に挑戦! No.18 (2002年追試) [易]

「個人の自立」に関連して、女性の自立を訴えた雑誌『青鞥』の中心にいた思想家として最も適当な人物を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 高群逸枝
- ② 与謝野晶子
- ③ 平塚らいてう
- ④ 福田(景山)英子

[No.17の答 ① ②×天皇の権力の制限・民定憲法 ③×中道勢力による政党政治 ④×国民主権の確立]